

ベーター 150周年記念展

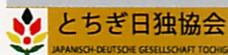
150 Jahre Bethel im Jahr 2017

Jubiläumsaktivitäten in allen Bethel-Regionen



とちぎ日独協会
会長 橋本 孝

Präsident von
JDG tochigi



とちぎ日独協会

JAPANSCH-DEUTSCHE GESELLSCHAFT TOCHIGI

医療・福祉の街ベーターはちょうど150年前に設立されました。今年(2017年)、6月21日と22日には、ビーレフェルト市のシティ・ホールで盛大に祝われ、6000人の人たちがお祝いに参加しました。2010年からベーター医療・福祉施設ベーターの正式の名前はフォン・ボーデルシュヴィング慈善団体ベーター(Die von Bodelschwingschen Stiftungen Bethel) となりました。

19世紀半ばの設立当初でも、てんかんの患者さんは既にドイツだけでも何十万人もの人がいましたが、そのような人たちの世話をする施設はありませんでした。これを救うため立ち上がったのがノルトライン・ヴェストファーレン・リップペ地区の福音主義教会と市と企業でした。

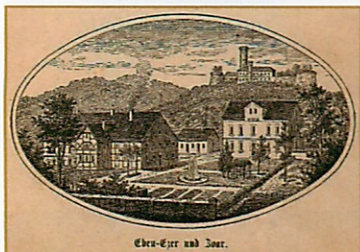
1872年、フリートリッヒ・フォン・ボーデルシュヴィング牧師が招聘され、第二代施設長としてベーターに就任してから様子が一転し、今日の発展を見るに至ったのです。

ベーターの任務はたくさんあります。障害者支援、高齢者支援、リハビリテーション、青少年支援、能力の開発(職業教育)、ホームレス支援、起業支援、子どもや若者、高齢者のホスピス、支援学校や学校教育(幼稚園から専門職業大学をふくめ大学まで)、社会奉仕団(ディアコニー)の養成、持家制度の推進などです。

1993年、天皇陛下と皇后陛下がベーターを公式訪問されてからそれを記念して、日独双方の努力で、2003年にはベーターに日本庭園もできました。

今年はベーター設立から150周年という大切な節目にあたり、日本でベーターの歴史的過程を通して紹介し、ベーターの理念を伝えることが重要だと考えました。今回、このドイツにあるフォン・ボーデルシュヴィング慈善団体ベーターの「現在のベーターの暮らし」と「患者さんの作品」をパネルで紹介いたします。ベーターの150年間の取り組んで来た過程を回顧し、どんな人にも才能があって人間として生きられることや、共生していける社会の実現に向けて、皆さんとともに考えてみるきっかけになればとパネル展を企画した次第です。

ベーターの歴史



1867年頃のベーター



1892年頃のベーター



みんなで働く



当時の Groß-Bethel での食事の風景



フリートリッヒ・フォン・
ボーデルシュヴィング (父)



フリートリッヒ・フォン・
ボーデルシュヴィング
(息子 フリッツ)



リュッダの芸術家の家(アトリエ)



マーラてんかんセンター

ベーテルの多岐にわたる活動

(Vielfalt Verwirklichen)



部品製造



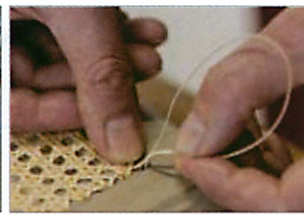
芸術



農作業



機織り作業



椅子の修理



マルメ・パトモス学校の学校祭



スポーツ祭典



日本庭園のメンテナンス

絵画・彫刻作品

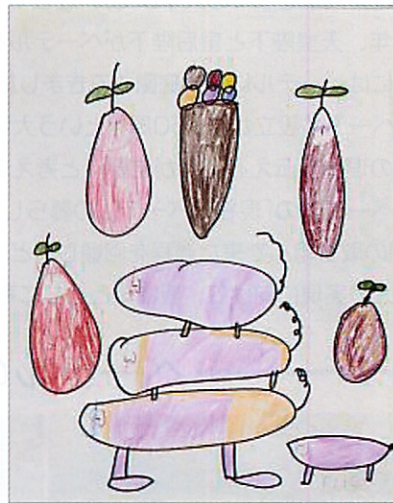
(Kunstwerke)



ワンダーランドにて



寺院のワニ



アイスクリームと果物と豚



チューリップマン



ダンスをする馬



スケッチ



インプレッション



動き



人物像ヴァリエーションII



ヨーロッパ



フクロウ



ガリー